

今後の高速育種運営会議のあり方について

これまで、高速育種運営会議は、エリートツリー種苗の早期普及に向けた取り組みを地域において促進するため、関係機関における調整等を行うこと等を目的として、エリートツリーの性能やエリートツリーを用いた施業モデル、エリートツリーの原種の取り扱いの考え方、公募による配布方法等について都道府県に情報提供を行うとともに、エリートツリーの普及に向けた課題等について意見を伺ってきたところ。

今回、改正間伐特措法が施行され、特定母樹（多くはエリートツリーからも指定されるものと思われる。）の原種が民間事業者にも配布されることに伴い、エリートツリーの普及も促進すると見込まれ、高速育種運営会議も新しい局面を迎えたとの認識。

このことから、各育種基本区の一部の県から、特定母樹の活用、エリートツリーの開発への期待、今後の高速育種運営会議への期待について聞き取りを行った。

1. 聴取した意見のポイント

- ① 特定母樹の活用については、多くの県で、育種種苗の普及率の向上、造林・育林コストの削減、苗木の安定供給と再生林の促進等、森林の機能向上と再生林の促進への期待が大きい。
- ② エリートツリーの開発への期待については、少花粉あるいは無花粉のエリートツリーの開発といった将来的な期待とともに、保育・施業方法とセットにした普及体制、伐期までの継続的な成長や他の環境で造林した場合の成長等、現在のエリートツリーに関する情報提供への要望も高い。
- ③ 今後の高速育種運営会議への期待については、エリートツリーや特定母樹について、原種配布がスムーズにいくような体制づくり・意見交換の場、開発や指定に対しての意見表明の場等、従来のエリートツリーに加え特定母樹を含めた会議への期待が高い。

2. 意見を踏まえた今後の対応（案）

改正間伐特措法の施行に伴い、今後、特定母樹が普及することにより、森林の機能向上と再生林の促進に期待しているところ。そのうえで、特定母樹の原種配布の適正化、開発や指定についての要望、造林・育林についての情報交換等の場としての高速育種運営会議に期待が大きいところ。これらのことから、今後、高速育種運営会議については、エリートツリーに加え、エリートツリーが主体となると思われる特定母樹についても扱うこととし、両者の地域における早期普及に向けた取り組みを促進する場としたい。